

加工・業務用野菜 全国優良事例集

＜生産者の事例＞

1. 宮城県 有限会社 氏家農場
2. 群馬県 新しい野菜産地づくり協議会
3. 富山県 JAとなみ野
4. 三重県 株式会社 富屋
5. 兵庫県 株式会社 山本営農
6. 広島県 有限会社 美づ葉
7. 大分県 株式会社 創
8. 沖縄県 有限会社 沖縄ファーム

【事例に関するお問合せ先】

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 東北農政局 生産部 園芸特産課 | ☎022-263-1111 (内4540) |
| 2. 関東農政局 生産部 園芸特産課 | ☎048-740-0434 |
| 3. 北陸農政局 生産部 園芸特産課 | ☎076-232-4314 |
| 4. 東海農政局 生産部 園芸特産課 | ☎052-223-4624 |
| 5. 近畿農政局 生産部 園芸特産課 | ☎075-414-9023 |
| 6. 中国四国農政局 生産部 園芸特産課 | ☎086-224-9413 |
| 7. 九州農政局 生産部 園芸特産課 | ☎096-300-6254 |
| 8. 沖縄総合事務局 農林水産部 生産振興課 | ☎098-866-1653 |

【その他のお問合せ先】

農林水産省 農産局 園芸作物課 ☎03-3501-4096

- 宮城県遠田郡涌谷町の農家7名で平成18年1月に「有限会社氏家農場」を設立し、平成22年から青ねぎの生産を開始した。平成23年から加工・業務用向けに出荷を始め、令和2年には生産・出荷の全量を加工・業務用に切り替え、令和2年度強い農業・担い手づくり総合支援交付金を活用して、ねぎのカット工場を竣工。
- サブソイラー等により排水対策の実施、連作障害回避のため緑肥作物をすきこみ、ねぎ残渣を活用した堆肥の投入等土づくりを基本とした環境保全型農業を実践している。JGAP（平成23年）及びASIAGAP（平成29年）を取得。
- 中間事業者、実需者については、関連業者からの紹介、商談会への参加、県内へ直接営業等で確保。
- 令和6年は、作付面積を令和4年の10ha（露地5.5ha、施設4.5ha）から10.5ha（露地6ha、施設4.5ha）に拡大し、原体出荷及びカットねぎの出荷量を令和4年の385トン（売上額2.5億円）から440トン（売上額3.5億円）に増加させることを目指し、地域の若い農業者が夢を持てる農業を実践していくこととしている。

有限会社氏家農場

・会社概要

所在地：宮城県遠田郡涌谷町

・栽培面積

施設：小ねぎ4.5ha(青ねぎ含む)

露地：青ねぎ1.5ha、白ねぎ4ha

その他（水稻5ha）

・年間出荷量（R4年度）

385t（全量加工・業務用向け）

（青ねぎ101t、小ねぎ204t、

白ねぎ80t）

【自社生産】

施設：小ねぎ（青ねぎを含む）周年

露地：青ねぎ7月上旬～12月下旬、

4月上旬～6月下旬、白ねぎ周年



【自社加工】ねぎの加工工程

【洗浄】

↓

【カット】

↓

【殺菌洗浄】

↓

【脱水】

↓

【計量・カップ詰め・

金属探知】

↓

【パッケージ貼り・

検品】



【出荷量の約2割】

直接取引

【販売】

【出荷量の約8割】

中間事業者

E社

【福岡県】

実需者

<卸売>

A社 【岩手県】

<加工>

B社 【宮城県】

<小売>

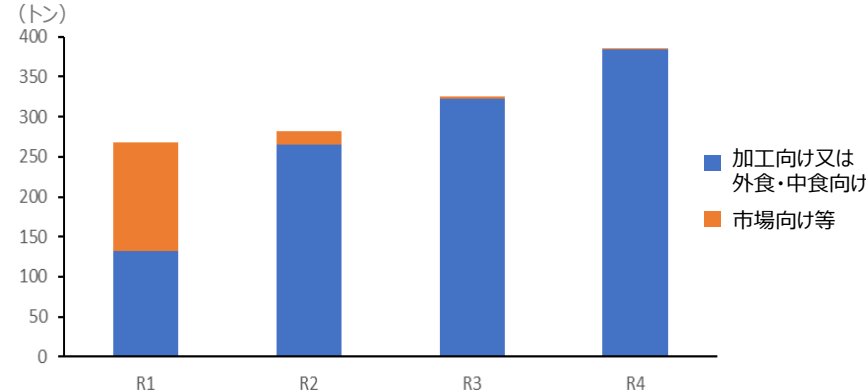
C社 【青森県】

D社 【宮城県】

他

出荷量の推移

(トン)



強い農業・担い手づくり総合支援交付金（R2）により整備

- これまで米麦中心の農業が行われてきたが、米の消費減少等により今後の農業の在り方を模索していたところ、地元で原料となる野菜の調達及び安定供給を求めている食品加工業者とのニーズが合致し、農業法人等の生産者との連携により、野菜生産へ転換することとなった。
- 大規模な野菜収穫を実現するため、国庫補助事業により、収穫機をはじめ、乗用管理機、自動移植機等の農業機械やパイプハウス資材の導入等を実施。
- 近隣に移転してきた食品加工事業者が新たな産地からの原料調達を模索していたことから、明和町、生産者、農協、種苗会社等が連携して生産農家の募集・農地の確保・栽培技術指導等を実施し、水田中心の農業から加工・業務用野菜への転換が図られ、中間事業者である食品加工業者への出荷が実現した。
- 増産を目指すにあたり、基盤整備や湿害になりにくい土づくりに取り組んでいくとともに、若い世代を中心とした新たな生産者の参画を目指す。

新しい野菜産地づくり協議会

・ 構成員

【生産者】

地元農家、農事組合法人等

【実需者】

A社、全農、農協

【その他】

群馬生科研、タキイ種苗、群馬県、明和町等

・ 栽培作物

キャベツ、レタス

・ 栽培面積

30ha（加工・業務用野菜）

・ 年間生産量（令和4年度）

1,926t（全量加工・業務用）

・ 出荷時期

12～3月

畝立同時施肥機

【協議会の様子】

全自動移植機

【パイプハウスの建設（レタス）】

【転換後の農地】

【目揃い会】

【収穫】

【先進地視察】



生産計画

出荷計画

実需者（中間事業者）

肥料メーカー等と連携した栽培指導

集荷・1次加工

全農・農協

【コンテナ出荷】

【キャベツ】

【工場】

【カット商品】

カット業者 A社

栽培面積の推移

(ha)

40

20

0

H29

H30

R1

R2

R3

R4

R5見込

全農出荷分

A社

新しい野菜（園芸）産地づくり支援事業（H29～R元）により収穫・移植機を整備後、産地生産基盤パワーアップ事業（R4）によりハウスを整備。

- きっかけ：近年の米価の下落等により所得が減少 → 園芸作物等を導入した経営の複合化を目指す（たまねぎの選定理由）①県内に産地がない②機械化作業が可能③水稻作作業と時期が競合しない
※古くから砺波地区で栽培が盛んなチューリップと作型が似ていること等
- 事業内容：①水田転換畑での機械化一貫体系に対応した技術確立
②富山の気象条件に対応した技術の確立③安定生産のための各経営体の技術レベルの底上げ
※加工・業務用に出荷することにより、販路拡大や調整作業等の省力化を目指す
- 販路：加工・業務用・・・剥き・カット・ダイス加工業者に供給／青果用・・・市場・業者等を通じて、小売店等に供給

JAとなみ野

たまねぎ産地の概要

端境期（6月中下旬～8月末）を狙って出荷

○ブロックローテーション
例）水稻→大麦→たまねぎ→大豆orにんじん

○JAの関わり
乾燥調製施設、選別調整施設を整備し、乾燥・調整・選別・出荷を行う

○作付け面積
H21年 8ha（24経営体）
R4年 136ha（90経営体）

○販売金額
H21年 12,899千円
R4年 694,544千円

生産者

播種：8月下旬～9月上旬
定植：10月中旬～11月上旬
収穫：6月中旬～7月上旬



6,349 t
(R4年産)

JA

【乾燥施設】
・乾燥



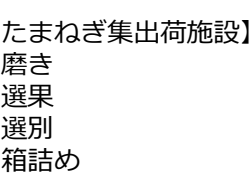
（加工・業務用）
【タッピングセレクト】
・根葉切り
・腐敗玉除去
・選果
・鉄コンテナ詰め



（加工・業務用）
【出荷】



（青果用）
【農産物処理加工施設】
・根葉切り
・腐敗玉除去



（青果用）
【たまねぎ集出荷施設】
・磨き
・選果
・選別
・箱詰め



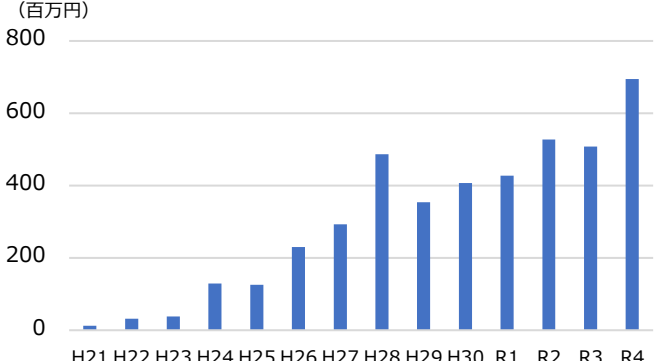
段ボール

実需者

（加工・業務用）
北海道、埼玉、栃木、茨城、千葉、神奈川、岐阜、名古屋、静岡、香川等

（青果用）
富山、東京、岐阜、石川、名古屋、大阪等

販売金額の推移



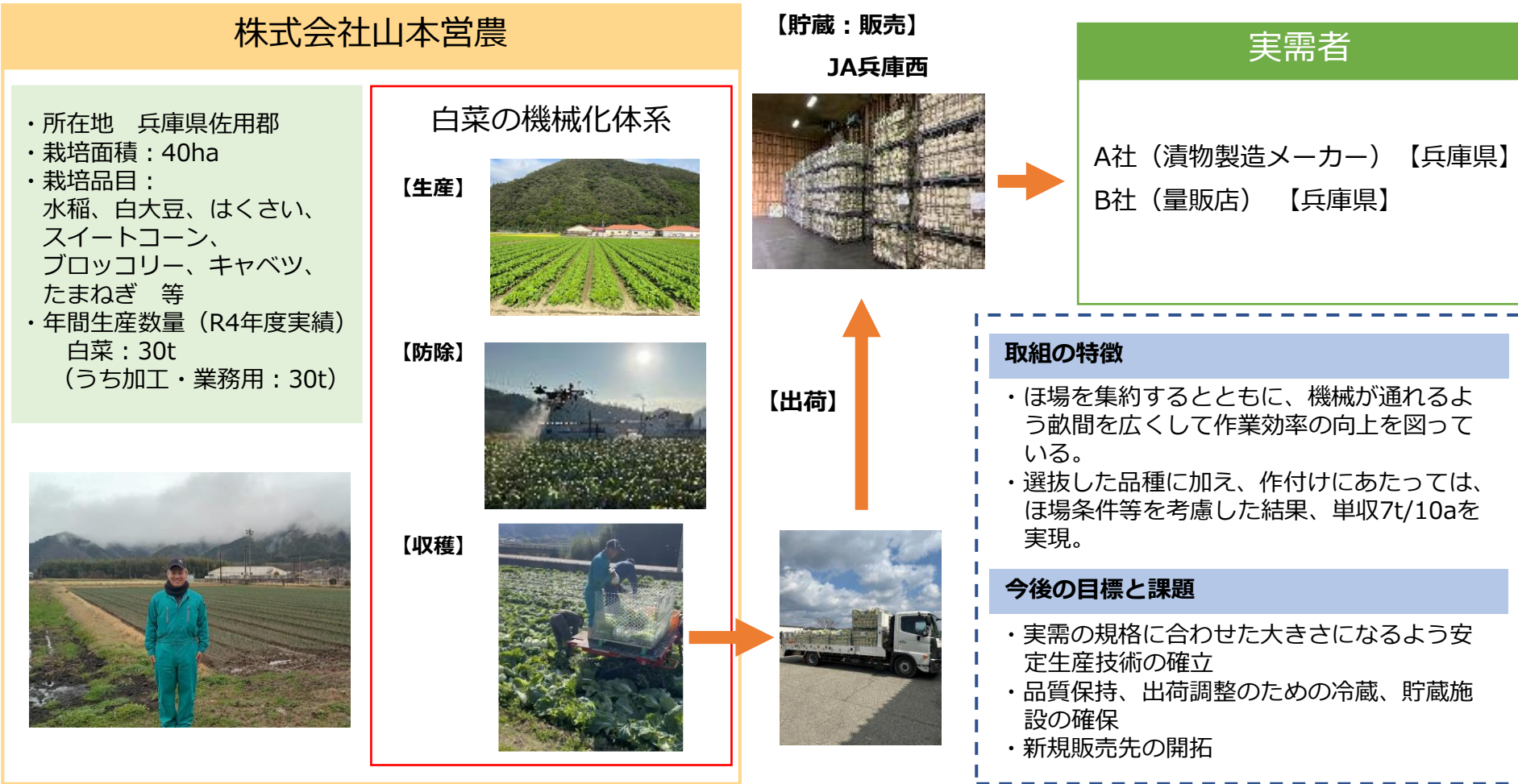
年次	販売金額(百万円)
H21	10
H22	20
H23	30
H24	120
H25	120
H26	220
H27	280
H28	480
H29	350
H30	400
R1	420
R2	520
R3	500
R4	680

産地生産基盤パワーアップ事業(H28,29,30)及び持続的生産強化対策事業(R2,3,4)により農業機械、集出荷施設等を整備

- 運送業を営む株式会社富屋は、従業員の提案により令和 2 年に農業部門を設立し、野菜の生産を開始。
- 当初、生鮮の小松菜を生産していたが、事業の規模拡大に当たり、作業の効率化と経費の削減に有利な加工・業務用野菜を中心とした生産を令和 5 年に開始。
- はくさい、たまねぎ、トウモロコシは鉄コンテナ・プラスチック折コンにより食品製造業者等へ出荷。
- 販売先（食品製造業者及び食品小売業者等）は、全農三重県本部の仲介で確保。
- 今後はJAみえきたとも連携しながら独自の販売体系を構築し、加工・業務用野菜の規模拡大を図る予定。



- 夏期の高温による生育不良や米価の下落等により水稻の収益が不安定であることに加え、近隣の漬物工場やスーパー等からの需要を受け、加工・業務用野菜の栽培を開始。
- 水田ほ場をはくさいやスイートコーンなどの高収益作物に転換し、毎年、ほ場に適した品種を試験選抜。
- はくさいは、定植、防除・肥料散布・水やりまで機械化。大型鉄コンテナで収穫し、自社で契約先に出荷することにより作業の省力化と経費削減を図っている。
- 今後は、はくさいに限らず加工・業務用向けを中心とした産地づくりに取り組んでいきたい。



- 元々は、野菜の卸売業を営む。野菜原料の注文以外に顧客から受けたカットねぎ注文をきっかけに、将来のカットねぎ需要を見込んで、平成16年から青ねぎの加工を開始。また、原料の安定供給のため平成20年に有限会社 美づ葉が中心となり「宝島ねぎ生産出荷組合」を設立。
- 1 法人（有限会社 美づ葉） 6 戸の専業農家から構成される宝島ねぎ生産出荷組合では、広島県南西部島しょ地域ならではのミネラル豊富な土壌と有機質堆肥により生産された風味の強いねぎを「宝島ねぎ」と名付け、ブランド化を図り、実需者へ販売。地元広島県を含む中国地方をはじめ、九州や四国の実需者からも好評を博す。
- 事業内容は、自社及び契約農家で生産し、直営工場で一次加工し、販売まで実施。
- 飛込み営業やDMにより、実需者との関係を構築。
- 今後は、実需者との関係維持に努めながら、生産していく考え。

有限会社 美づ葉

- ・所在地
広島県広島市中区
- ・栽培面積
4.8ha（自社）
- ・年間生産数量（R5年度）
390 t
（うち加工業務用：360t）

【自社生産】 通年



100 t

加工・業務用野菜の取組

【洗浄】



【カット】



【貯蔵・保管】



【出荷形態】



中間事業者

【販売】

直接取引

実需者

- A 社（外食）（広島県）
- B 社（外食）【九州・中国】
- C 社（外食）【四国・中国】

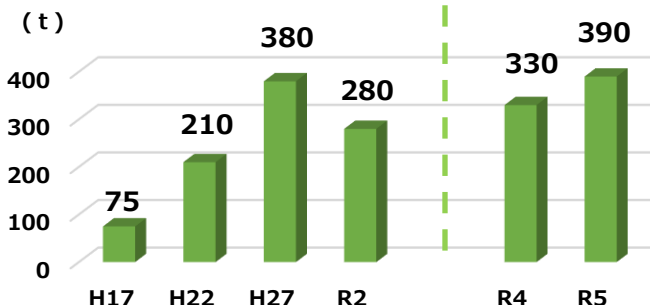


【契約農家等】
通年

290t



ねぎ出荷量の推移



強い農業づくり交付金（平成20年度）により農産物処理加工施設を整備。

※出荷量は、コロナ禍により令和2～4年にかけて落ち込むも、現在は増加傾向。

- 地域の生産者の高齢化等に伴う耕作面積の減少を背景に、農業で活力ある地域の創造、未来ある若者が継承できる環境の創出などをコンセプトに、平成29年10月、親会社の冷凍加工業者アグリハート(株)の生産部門として設立。
- 事業内容は、冷凍加工用原料野菜の生産及び販売、契約農家の受託作業（は種、除草、収穫、集荷）。
- 親会社の(株)アグリハートに全量販売することにより、中間事業者や実需者を確保している。
- 中山間地域において、耕作放棄地解消、地域雇用の創出及び冷凍加工業者の増産へ対応するため、①機械化一貫体系及びスマート農業の導入、②一元管理システムの構築、③標高差（600m）を活かした周年安定供給体制の確立、④契約生産者支援、⑤地元農業大学校及び企業との連携、⑥地域資源を活用した堆肥づくり等の取組を実践し、面積拡大を目指す。



- 市場出荷外野菜の有効活用を図るため、カット野菜専門の有限会社グリーンフィールドの設立（平成17年）と工場の整備をきっかけに取り組み開始。
- 農産物の生産（レタス、サニーレタス、グリーンリーフレタス、ロメインレタス、キャベツについてGLOBALG.A.P.を取得済み）。令和4年から契約量の関係でレタスを中心に生産。
- 加工・業務用野菜と一緒に取り組んでいる（有）グリーンフィールド及び卸売事業者との契約栽培を実施。

